

コロナ禍のこぼれ話

外来看護師／齊藤 英子

医療現場ではコロナウィルスへの感染拡大防止そしてワクチン接種など様々な対応が求められてもうすぐ2年経ちます。私は外来看護部で日々コロナウィルス疑いもしくは陽性の患者様さんの対応をしています。

感染拡大を防ぐ対策として当初は来院されるすべての方に対して正面玄関前で問診や検温シトリアージを行ってました。現在は隔離プレハブ（玄関前）や隔離ブースが設置され有熱・有症状の患者さんをスムーズに診療できるようになってきました。

患者さん一人一人に詳しい状況をお聞きするのは受付だけでは困難であり、有熱や有症状の方は隔離ブースにご案内して看護師が詳細な問診を聴取しています。その後、隔離の必要がなければ隔離解除としています。しかし、感染に対する患者さんたちの不安は強く隔離ブースでの待機をなかなか理解してもらえず不安や怒りを訴える患者さんもおられます。ビリビリした空気の中で隔離ブースでの待機に不安を持たれることは仕方のないことかもしれません。そこで、隔離ブースの椅子や部屋は消毒済みであることを伝えたり（目の前で消毒を行ったり）それぞれコロナの手指消毒を促し安心して診療をうけてもらえるように努めています。隔離が必要な疾患はコロナ以外にもあり日頃からの感染対策の徹底は重要です。患者さん・スタッフを守るためにも、患者さんにも丁寧に説明し安心できる対応を心掛けていきたいと思っています。コロナが落ち着いて、以前のように制限なく旅行やライブなど趣味を思う存分楽しめるようになるまでみんなで支え合っていけたらと願います。

私のススメ

本／DVD／音楽etc紹介

「加江田溪谷」

栄養科 管理栄養士
齋藤 由美子

宮崎生協病院から南へ30分ほど車を走らせると自然豊かな加江田溪谷がある。加江田溪谷との出会いはコロナが始める前の2019年5月25日「女子会バードウォッチング」山歩きや野鳥の専門家による説明を聞きながら歩いたあの日は今でも鮮明に読みがえってくる。新緑に包まれた森、沢の音に負けないくらい美しくさえずるミソサザイ、バナナ木の休憩所でみた青い鳥、オオルリ。チュルルルルーと南国系の不思議な鳴き方のアカショウビン。アカショウビンに似た鳴き方をする、かじか蛙など。それから「また、あの鳥に出会えるかもしれない」と期待に胸をふくらませ、加江田溪谷に足を運ぶようになった。双眼鏡と鳥の図鑑、おにぎりをリュックに詰め込んでてくてくと片道3kmの溪谷を歩く。しかし、そう簡単に自然の動物に出会えるものではないようで、会えない日の方が多い。花も豊富で、春はノアザミ、秋には黄花のホトトギスなど季節を知らせてくれる。今年も出会えることを期待して溪谷へ足を運ぶだろう。



私の好きな本

宮崎生協病院
内科医師 永友 英之

「最近読んだ好きな本」

おもしろい本が何冊もあり、一冊に選びきれなかったで、何冊かを手短かに紹介。

① 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」

（ブレイディみかこ著）



著者は英国在住の日本人。当時中学生だった息子（アイルランド人とのハーフ）との生活を綴ったエッセイ。息子の通う中学校は「底辺中学校」と呼ばれ、人種も貧富もごちゃまぜである。そこには移民の子

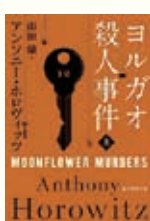
② 「嫌われた監督」



落合博満は中日をどう変えたのか（鈴木忠平著）プロ野球の話。著者は落合監督時代にスポーツ新聞の記者として中日ドラゴンズを担

当していた。落合の監督時代を、川崎投手、吉見投手、和田選手、荒木選手など12人の視点で振り返っていく内容となっている。野球好きにはたまらない一冊。結局、落合がすごいことはよく分かった。この著者が、記者として成長していく話としても読める。良書。

③ 「ヨルガオ殺人事件」(アンソニー・ホロウィッツ著)



「カササギ殺人事件」に続く第二弾。相変わらずの面白さ。作中に別の全く関係ないミステリーを何の違和感もなく紛れ込ませる手腕がすごい。ただ、読むなら絶対に「カササギ殺人事件」を先に読むべきで、

前作の内容を知っていないと混乱する恐れがある。④ 「私はいったい、何と闘っているのか」(つぶやきシロー著)



著者は、SNSが出現するはるか前から、名前の通りつぶやき（ツイート）で一世を風靡（そこまですではないかもしれない）したお笑いタレント。スーパーマーケットで主任として働く20歳の主人公伊澤春男の「平凡な」日常を描くのだが、この男の脳内では、こじれた自意識からの妄想が流れ続け、その中の一部が（本の中の）現実とシン

クロしていく。おもしろい。

⑤ 円(劉慈欣 リュウ・ジキン著)



SFの名作中の名作「三体」作者の短編集。短編もうまい。「三体」は膨大なので、こちらから入る方がとつきやすいかもしれない。

ちなみに、私は「三体」が好きで好きで、第三部のときは発売日にどうしても手に入れたくて書店に向かった。その書店（大型です）で「三体ありますか？」と言ったら、「宮崎は二日遅れなので、入荷はあさってになります」と笑顔で返されてしまった（本当の話です。皆さんも気を付けて）！ とても辛かったが、（Sだけに）「時空を超えれば三体を買える！」というフレーズが浮かんだので、前向きな気持ちになって帰路に就くことができた。

